



約二千七百種も生息

蛇は爬虫類へび亜目の動物で、トカゲと同じ祖先をもつといわれています。

体は細長く、四肢はありません。細い舌の先端は二またに分かれてよく動きます。こんな異様な外見から、蛇を嫌う人が多いようです。

蛇は温帯、熱帯、亜熱帯に多く生息し、アラスカ、シベリアなど寒い地方にもいます。全世界に約二千七百種もいるといわれています。

蛇は悪者？ 神？

日本の神話に登場する蛇はヤマタノオロチ（八岐大蛇）といって、頭が八つ尾が八つ、体の長さは八つの谷を越えるほどだったといえます。そのオロチが娘を食いこいて、スサノオノミコトという神に退治されたという話です。

一方、蛇は神格化され、聖書

れるのはもちろんですが、それを薬用に使った例もあり、強壮剤としても珍重されています。

蛇の絵に

足を書きたす

蛇は、古くから人間とかわりが多い動物だけに、蛇に関する故事やことわざもいろいろあります。

「蛇足」。これはよく知られている言葉で日常会話にも使われていますが、こんな由来があります。

昔、楚の国の役人が、蛇の絵を一番早く書いた者が酒を飲むことができるという競争をしました。一人がいち早く完成したにもかかわらず、時間になかなか足を書きだしてしまい、負けてしまったという話です。

そのことから、あつても意味のないもの、余計なことという意味に使われています。

「蛇の道はへび」も、よく聞くことわざです。「じゃ」といい「へび」といっても、呼び方が違うだけで同じもの。同じ仲間のやったことならすぐに分かるという意味です。

「藪蛇」。「藪をつついて蛇を出す」。しなくてもよいことをして、かえってよくない結果になることです。



2001年 私の目標

蔵本 紋子
宗頭（明倫小6年）

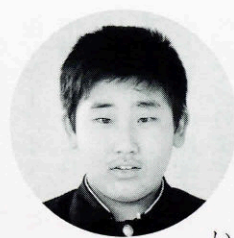
2001年、21世紀の幕開けです。この記念すべき年に私は、12歳をむかえます。

21世紀という新しい年をむかえ、2つのちかいを立てました。1つ目は明るく健康な毎日を過ごすということ。2つ目は中学生になるので、勉強や部活を自分から積極的に取り組むということです。

1つ目の明るく健康な毎日を過ごすということは、私は今でも元気な方で、休むことはなかったけれど、中学生は自転車に登校するし、安全に気をつけ健康な毎日を過ごすことが大切だと思うからです。

2つ目の勉強や部活を積極的に取り組むということは、中学生になるので小学生の時よりももっと自分から進んでやるのが大切になってくると思うし、何事にもがんばりたいと思うからです。

十二支の中の「へび年生まれ」の私としては、2つのことを目標に、いろいろとチャレンジしてがんばりたいと思います。



新しい年に 「新しい自分」に

杉原 裕紀
浅田（浅田小6年）

いよいよ21世紀の幕開けです。今世紀最初の千支は「巳」、ぼくの年です。そして、ぼくは今年、中学生になります。この記念すべき年を心に残る1年にしたいと考えています。

まずは、残り少ない小学校生活です。ぼくたちのクラスは、男子5人、女子9人という少人数です。人数は少ないけど、いつも仲良く、力を合わせ、いろいろな行事や集会などをこなしてきました。最後まで、最高学年としての役割を果たしたいと思います。また、中学校では2つのクラスに分かれてしまうので、14人での楽しい思い出をできるだけたくさん作りたいと思います。そして、中学校に入学したら、出会いを大切に、たくさんの友達を作りたいと思います。その中で新しい自分を発見し、自信をつけたいと思います。また、野球部に入り、自分の心と体をきたえたいと考えています。

やりたいことが盛りだくさんのこの1年。「巳」のように長い気持ちで、ねばり強く挑戦していきます。